

文 化 服 装 学 院
平成 25 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 26 年 7 月 23 日

1 教育理念、人材育成像

● 1-1 学校の教育理念

- 国際的に通用する知識と技術が修得できる環境だが、それを生かす能力をもっと身に付けさせなければならない。(語学力、プレゼンテーション能力など)
- 優秀な卒業生の輩出と共に、ファッション分野における専門職の地位の向上や実社会での生活の安定等の点で、他分野と遜色がない分野にするための努力を、学校として意識し実行することを明記すべき。
- 学院としての強みを盛り込むとなおよい。

● 1-2 課程及び学科の教育理念、人材育成像

1-2-1 服飾専門課程の教育理念、人材育成像

- 基礎から応用までを総合的に学習し、さらに専攻科においてより高度な専門知識や技術を修得させ、柔軟な人間力をも養成しようとするところが評価できる。
- ファッション工科専門課程との差別化を明確にする必要がある。
- 具体的な教育理念、人材育成像が見えにくい。

1-2-2 ファッション工科専門課程の教育理念、人材育成像

- 常にアパレル業界の求める人材を考えたコースの設定、カリキュラムの構築や、積極的な産学連携の取り組みは評価できる。
- 教育理念と人材育成像が明確に示されていない科がある。他課程とのバランスを意識して内容をより絞り込み、簡潔に表現した方が良いと思われる。
- 服飾専門課程との差別化をより明確にしていく必要がある。

1-2-3 ファッション流通専門課程の教育理念、人材育成像

- 1年次は基礎、2年次はそれぞれ職域にあったコース設定と専門能力の修得と段階的な人材育成に期待できる。
- 明確な教育理念、人材育成像が見えづらい科がある。
- 他課程とのバランスを考え、教育理念や人材育成像をより明確にしていく必要がある。
- 各科の教育目標の差別化が必要である。
- ファッション流通科上級コースの特色や、ファッション流通専攻科の各専攻の違いを明確化することが必要である。

1-2-4 ファッション工芸専門課程の教育理念、人材育成像

- 教育理念、人材育成像が曖昧な科があるが、概ね適切である。

1-2-5 関連科目の教育理念

- 概ね適切に教育理念が示されているが、一部明確でない科目がある。

1-2-6 II 部服飾専門課程の教育理念、人材育成像

- II 部としての教育理念・人材育成像を明確にする必要がある。
- I 部服装科の教育理念との関連付けやII 部でなければならない理由を明確にすると良い。

2 学校運営

● 2-1 学校法人 / 2-2 学校組織

- それぞれの部署、会議、委員会については滞りなく運営されていると評価できる。ただし課題に対しての、より具体的な対策を提示する必要がある。
- 教務委員会は各専門課程より選出された教員で構成されている特性から、他課程より提議されたカリキュラム変更等に対し、適正に判断することが難しいケースが多々生じている。そのため各専門課程（分野）を横串にコンサルティングできる人材の要請が求められる。
- 委員会の会議時間が長く、本来、時間をかけるべき学生指導、授業準備に大きな妨げになっている。他の会議も数多くあるため、所要時間のスリム化が求められる。

● 2-3 教員の組織

2-3-1 専任教員と非常勤講師の人数の割合

2-3-2 採用方法と人事考査

2-3-3 教員の資質向上

- 技術、知識の会得だけでなく、人格的な要素も含めて資質向上するためのメニューも必要と思われる。
- 教員の資質向上について、現在の産業界での手法や考え方等を取り入れた研修の実施を検討して欲しい。
- 現在、クラス数の減少で、副主任が主任（担任）に昇任するのに時間を有している。若い教員が近い将来主任になることを考え研究や研修に参加させたほうが良い。ある程度の年数で主任にさせても良いのではないか。

● 2-4 職員の組織

2-4-1 事務の分掌

2-4-2 採用方法と人事考査

2-4-3 職員の資質向上

2-4-4 産業界との連携による教育活動の体制整備

- 法人本部との人事交流を積極的に行い、問題の認識と共有、及び相互理解を推進していくことが望まれる。
- 事務職員内の連携及び、教員と事務職員の連携に支障が生じないよう早急に改善策を考える必要がある。
- 学生や教員が事務局に何を望んでいるのかを汲み取るために、職員の研修に教員も参加させると良い。
- 職員の資質向上について、より専門性を追求した研修等への参加を検討して欲しい。
- 学園本部と本学院との様々な連携において、学生対応に関する互いの意識に温度差があり、問題点の把握と解決策の実行を遅れさせていることが多い。どの部署が力を持つのかではなく、学生を預かる集団組織としての意識を全面に掲げて各々の関連した業務を遂行できる環境をつくる努力をするべきである。

3 教育活動

● 3-1 教育体制

3-1-1 クラス担任制

3-1-2 文化ファッション大系（オリジナル教科書）

- クラス担任制は本学院の教育システムとして非常に有効に機能しており、今後も継続していくことが望まれる。
- オリジナルの教科書が体系的に整備されていることは、他の学校との差別化と本学院を特長づけるものとして評価できる。

● 3-2 学校のカリキュラム編成方針

- 毎年カリキュラムの改編ができる環境だが、担当教員の見解によって左右される。保守的な考えを持つ教員の場合、変更がなされない状況が続くことがあるため、適切なカリキュラムであるのか常に検証する意識を持つことが大切である。

● 3-3 課程のカリキュラム編成

3-3-1 服飾専門課程のカリキュラム編成方針

- カリキュラム編成方針が不明確な科があるが、概ね適切である。
- 服飾専攻科は各専攻の違いと特長をより明確にしていくと良い。

3-3-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成方針

- 産業界のニーズや社会の動向に合わせ、各職域をしっかりと捉えた適切なカリキュラム

編成がなされている。

- カリキュラム編成方針を簡潔にまとめ明確にした方が良い。

3-3-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成方針

- カリキュラム編成方針が見えづらい箇所があるが概ね適切である。
- カリキュラム内容が他分野に比べ非常に短いスパンで変化し、その対応の迅速さを求められるこの課程では特別な編成組織を置く必要があるものと思われる。

3-3-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成方針

- 人材育成や産業界のニーズなどを踏まえた編成方針が見えにくい科があるが、概ね適切であると思われる。
- 製作・実習の時間を多く配分していることを強調すると良い。

3-3-5 II 部服飾専門課程のカリキュラム編成方針

- カリキュラム編成方針や課題をより明確にするべきである。

● 3-4 教育の方法

- シラバスは今後公開していくべきである。
- シラバスを学生や外部に公表することにより、科目を横断的に見ることにつながる。

● 3-5 授業研究

3-5-1 服飾専門課程の授業内容、授業研究、実施成果

- 実施成果や課題に関して説明が不十分な科があるが、概括的には適切な授業運営がなされている。
- 産業との関わり（インターンシップ、コラボレーション、コンテスト）や資格取得などの説明が不足している科がある。
- IT 機器やリソースセンターの資料等（図書館の貴重本・テキスタイル標本等）が活用されていることを授業の魅力として取り上げるべき。

3-5-2 ファッション工科専門課程の授業内容、授業研究、実施成果

- 実施成果の説明が不十分な科があるが、概ね適切に授業運営がなされている。

3-5-3 ファッション流通専門課程の授業内容、授業研究、実施成果

- 流通課程として市場に向けた情報発信など、時代性を先取りするための授業の検討が必要である。

- 授業研究を行いどのような成果が表れたのかを明確にする必要がある。

3-5-4 ファッション工芸専門課程の授業内容、授業研究、実施成果

- 1つの科目が突出し授業全体からみた授業研究、内容、実施につながっていない。また、1年次から3年次までの授業展開を体系的に説明が必要である。
- 概ね適切な授業運営が展開されている。

3-5-5 II 部服飾専門課程の授業研究、授業内容、実施成果

- 具体的授業研究や授業内容が不明瞭の箇所があるが、概ね適切である。

● 3-6 教育・成績評価

3-6-1 成績評価基準

3-6-2 定期試験、単位認定に対する評価方法

3-6-3 卒業・進級試験に対する評価方法

- 成績評価の表示方法は統一するべきである。
- 単位留年した際の学籍の在り方については、現状のクラス担任制では複雑になるため、再検討していく必要があると思われる。
- 通年科目で中間評価を行った際に前期と後期で成績が異なってしまう点は速やかに改善する必要がある。

● 3-7 キャリア教育

3-7-1 キャリア教育の実施

3-7-2 進路指導の方針及びその状況

- キャリア教育のカリキュラムの構築が必要と思われる。
- キャリア教育を導入してから4年経過し、講師や内容など体制が整ってきたように思うが、キャリア教育の授業を受けるレベルに達していない学生が多いので、より身近に働く楽しさ、厳しさを実感できるようなオリエンテーションのようなものを取り入れたほうが良い。
- キャリア教育は専門的な分野であるため、学校内部で担当教員を育成するよりも、外部の専門家に依頼、あるいはヘッドハンティングするなどして体制を整えた方が良い。
- 卒業生の動向調査の方法を検討した方が良い。
- キャリア教育の本質は就職に有利にはたらくことだけではなく、生涯を通してキャリアの重要性を伝える意義もあることを、カリキュラムの方針に明確に表現するべきである。

● 3-8 学外実習

3-8-1 学外実習の方針及びその状況

3-8-2 インターンシップの方針及びその状況

3-8-3 海外研修の方針及びその状況

3-8-4 コラボレーション

3-8-5 コンテスト活動

- インターンシップは職業体験授業として非常に重要である。受講率アップと体制整備は喫緊の課題である。
- インターンシップの受け入れ先が減少している問題もあり、受講率の低さは決して学生のやる気の問題だけではない。キャリア支援室には受け入れ先企業の開拓をお願いしたい。
- コラボレーションは卒業年次を実施することが多く、学生は就職活動をしながら行わなくてはならない。コラボレーションの結果、内定に結びつくものは良いが、そうでないものが多いので、卒業年次のコラボレーションに関しては、授業カリキュラムに取り入れるようにしていった方が、参加学生も集中して行えるのではないかと。
- すべてのコラボレーションから良い成果が得られている訳ではないので、内容の精査や、実施を選択することを考えるべきである。

● 3-9 学校行事

- 学校行事としての件数は十分なものと思われるので、各行事の内容を深くし完成度の高いイベントとして充実を図る必要性を強く感じる。
- 服飾の学校なので本来のドレスコードの意味を知らせた上でドレスコードイベントを行ってほしいが現在行っているものは、カラーコードではないかと思われる。

4 学修成果

● 4-1 進路・就職状況

4-1-1 就職率・推移

4-1-2 資格取得率・推移

- 留学生に対しての就職支援について、充実させていくことが必要である。
- 資格取得率・推移における企業、業界団体への働きかけや、就職率を上げるための具体的な取り組みが必要である。
- 近年就職率が上昇していることは評価できるが、更なる対策を講じていくことが求められる。
- 企業研修（インターンシップ）の体験は学生の就職意欲を上げるため、早急に体制を整備してもらいたい。教員が新規のインターンシップ先を開拓しているケースもあるが、キャリア支援室による開拓を推進してもらいたい。

- 学生の興味のある経験者しか採用できない中小企業に対して、新卒の学生の受け入れを依頼して欲しい。
- もっと積極的な支援活動を導入していく動きが必要。専門学校最大の特長・セールスポイントであるストレートな新卒の就職に対して食欲さがほしい。
- 資格取得の有利性を再考し、受け入れ側（企業）に検定問題・内容を知らせアピールしていく必要が急がれる。

● 4-2 退学者への対策

- 専門学校の中で相対的に見れば退学率が低いことは評価できる。
- 退学者は学校にとってマイナスに受け止められがちであるが、退学者にとっては学校に不満などがあるわけではなく、進路変更など前向きな理由も多くある。
- 退学者への対応が教員に委ねられているばかりでは、事務方は実態をつかめない。全学的に取り組んでいくことが必要である。
- 退学者の理由も年度により様々であり、ひき続きデータを取り今後活用できるようにするのが望ましい。また、今後どのように退学について取り組んでいくのか具体案を構築してほしい。
- 高校時代、通信制や定時制など、毎日朝から夕方まで学校に通う習慣が身につけていない学生も多く入っている。そのような学生が退学者の人数を占めている割合も多い。対策として、例えば他の学生が2年間で卒業する内容を3年間などと在籍期間を延長し、年間の授業時間数を減らして補講する時間を増やしていく。単位制にするのなら、それも可能なのではないか。

● 4-3 卒業生の状況

- 長い歴史とともに業界で活躍する卒業生が多数いることは本学の強みである。

5 学生支援

● 5-1 キャリア支援

5-1-1 求人の開拓

5-1-2 ハローワーク等公的支援機関との連携

5-1-3 資格試験対策

- 既存のアパレル企業に留まらず、ファッションを生かせる他分野の領域にも求人の開拓の幅を広げていく余地があると思われる。
- 学生数から考えると、より一層の求人開拓（新規開拓）努力が必要である。また新卒者への企業斡旋を今以上に力を注いで欲しい。

- 新規開拓した企業を学生へアピールすることを強化していくべきである。エントリーする学生を待つだけでなく、積極的に学生を促し、企業と学生をマッチングさせていく必要がある。
- 検定への興味を学生に持たせるには、就職に結びつきがなければならない。
- 資格試験対策では、フォーマルスペシャリスト検定は事前に学内全体で告知して予備講話を実施し、合格率を上げるようにしている。
- 資格取得の必要を説くのはもちろん大切だが、取得者が優秀であることを就職先に説く必要があるのではないかな。

● 5-2 学生相談体制

- 精神面が弱く、心の病をもったまま入学してくる学生も年々数が増しているため、今後、学生相談室を気軽に利用できる体制整備が必要である。

● 5-3 経済支援・健康管理

5-3-1 奨学金

5-3-2 学生寮

5-3-3 健康診断

- 奨学金、学生寮、健康管理は大きな学校だからこそ充実させ、入学希望者を募るアピールポイントとしてもらいたい。

● 5-4 課外活動・学友会（在校生の会）

- 全体的に活動が縮小傾向になっているが、活躍している部活動や、社会に貢献している委員会もある。

● 5-5 卒業生・社会人への支援対策

5-5-1 再教育・相談

5-5-2 すみれ会（同窓会）

- Web 環境が整う現状を活用し、卒業生や社会人への情報提供がもっとスムーズに行えるよう検討が必要である。
- 通信教育を受けている学生の実質的な数値が記載されていないので、ニーズがどの程度あるのかわかりづらい。
- 卒業生支援としては、すみれ会との連携強化が必須事項である。
- すみれ会会員のメリットを更に打ち出し、永年会員数を増やし、卒業生に足を運んでもらう回数を増やす工夫が必要である。それによって、在校生との交流も増えるのではないかな。

6 教育環境

● 6-1 施設・設備

6-1-1 教室・講義室・実習室の整備・使用状況

6-1-2 教員研究室の整備・使用状況

6-1-3 事務室の整備・利用状況

6-1-4 健康管理センター医務室

6-1-5 文化・服装形態機能研究所

6-1-6 教育関連施設

- 各教室の1人あたりの面積が狭いため、限られた面積でいかに有効に使用していくかを早急に対応していかなければならない。
- 服飾博物館は現状の展示も学生の学びにつながっているが、より多くの方の利用を促進すべく展示方法の工夫があるとよい。
- ファッションリソースセンターでは学生のニーズに応じた企画展示が行われており評価できる。
- 学生食堂は、混雑して待ち時間が長い、途中で食材が足りなくなりメニューが変わるなど、本学院から問題点を挙げ意見を出ているので、早急に改善することが必要である。

● 6-2 機材・備品の管理状況

- 適切に運営されている。
- 教室のミシンを増やしても、それを使用するスペースがない。1クラスの人数を調整してから、備品の管理をすべきである。

7 学生募集

7-1-1 活動の時期

7-1-2 活動方法並びに状況

7-1-3 効果と実績

- 近年広報活動についてさまざまな新しい試みがなされていることは評価できる。
- 多くの手段と回数で広報による学生募集をしているが、進学イベントスケジュールなど再度検討し、アンケートなどによる分析・対策をしっかりと行い、効果的な広報活動につなげる必要がある。
- カリキュラムやキャリア支援、学生サポートなど、多方面からの見直しが必要である。
- 在校生や卒業生からの情報発信について、注意し活用が望まれる。

- ホームページ、インターネット、SNSなどの活用は非常に効果的であると共に、紙媒体である入学案内書の更なる充実も非常に大切である。
- 中等教育機関から託される専門教育機関として、小学、中学、高校等からの進学者やその関係者にしっかりと信託を得ることが重要である。大学の同分野との更なる熾烈な競合が高まる中で、大学進学希望者からみて常に選択校としての存在感を定着させるのが急務と思われる。
- 高校へ本学院のプログラム内容を知ってもらうために、積極的に特別講義や出張授業を行い、高校教員との連携を強めていくことが必要である。

8 財務 / 9 法令等の遵守

- 8 財務状況、監査、財務状況の情報公開
- 9 法令遵守の状況、適切な学校評価の取組
- 適切に運営されていると思われる。

10 社会貢献・地域貢献

10-1-1 活動への支援状況

10-1-2 公開講座・教育訓練等

- どのように社会や地域に貢献しているのか見えづらいため、明確にする必要がある。

11 国際交流

11-1 留学生の受け入れ

11-2 国際交流の状況

- 単体の専門学校としては留学生が多い学校であるにも関わらず担当者は兼務を含めて1～2名と少ない。これから更に複雑、専門化する留学生の対応には、専門の部署を置いて活動する時期と思える。
- 専門学校という日本特有の学校形態に他校との差別化や留学意識が高まっている社会の流れに合わせ、留学プログラムの充実をお願いしたい。
- 合作、提携校の留学、受け入れ体制はカリキュラム編成や授業内容なども周到に準備し万全の形で遂行しなくてはならない。